

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜希望が丘特別支援学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和8年2月9日 (月) 9:30~11:30
- 3 開催場所 岐阜希望が丘特別支援学校会議室
- 4 参加者

会 長	出口 和宏	岐阜大学教職大学院 特任教授
副会長	可児 隆	早田自治会連合会 会長 (欠席)
委 員	大野 昌伸	早田公民館 館長
	青山 幸二	岐阜県福祉友愛アリーナ 館長
	西村 佐帆	P T A会長
	森 庸総	岐阜希望が丘こども医療福祉センター 副所長
	森嶋 浩	社会福祉法人清流園 次長
	中島 未知	児童デイサービスリハビリランド 管理者 (欠席)
	今村 正子	社会福祉法人ポップコーン福祉会 施設長 (欠席)
	中村 真由美	岐阜県重症心身障がい児 (者) を守る会 会長
学 校 側	吉田 孝弘	校長
	本田 知子	教頭
	加藤 みどり	事務長
	長瀬 やよい	小学部主事
	端場 政博	中学部主事
	横田 真	高等部主事
	吉田 明永	教務主任

5 会議の概要 (協議事項)

(1) 議長の選出について

会長 出口 和宏 氏 を議長とすることについて、全委員より承認が得られた。

(2) 現在の取組状況について

- ・授業体験を行い、児童生徒との交流を実施し意見を得た。

(3) 令和7年度の反省と次年度の課題について

(4) 令和8年度の学校運営及び行事等について

意見1 : 小学部の自己評価にある「教科・領域を合わせた指導に含まれる各教科のねらいを明

らかにして」とは、どのようなことか。

⇒国語や算数などの教科の課題や内容を、児童が実際の生活に即して体験的に学べるよう「日常生活の指導」や「生活単元学習」などでは教科横断的な指導をしている。例えば、朝の会などの活動場面において、教師が各教科のねらいや視点をもとに児童の姿を捉え、意図した働き掛けをしていくことが重要である。

意見 2 : 小学部では、特に食事支援における人員不足と教職員の負担が課題としているが、この点への対応や対策はどのように考えているか。

⇒転入による児童数増加やその日の職員体制により、1人の教職員が2人の児童の食事支援にあたる必要が度々生じたが、他学部と協力して対応した。今後も必要に応じて学校全体で柔軟な体制を築くと同時に県教育委員会へも引き続き要望していく。

意見 3 : 隣接する希望が丘こども医療福祉センターとの関係で転出入が多く生じるが、今後も関係機関との連携や協力体制のもと、柔軟に対応してほしい。

意見 4 : 中学部において、縦割りグループの学習支援や食事介助などを通して、担任以外の教職員とのかかわりを広げ、理解者や支援者を増やす取組みが効果的でよい。

意見 5 : 次年度の各部修学旅行の行先や行程は決定しているか。また、次年度の高等部の修学旅行を1泊2日としたのはどのような理由からか。

⇒全ての部について行先を決定し、計画を進めている。高等部では、参加予定生徒の実態や体調面への配慮、またそれぞれの家庭状況や物価高の影響による旅行費高騰などを踏まえ、保護者と相談の上で1泊2日とした。

意見 6 : 保健安全部によるヒヤリハットについての取組みや、生活支援部による防災、防犯に対する取組みを通して、危機管理意識を高くもち、迅速な報告や対応を心掛けるなど、安全・安心な学校生活を守るための努力や工夫を続けてほしい。

外部講師を招いて防犯訓練や安全指導を実施することはあるか。

⇒警察署生活安全課より講師を招いて高等部生徒向けに「闇バイト」「情報モラル」に関する講話を実施した。他にも警察や消防士の指導や助言を得ながら職員研修や講習を実施している。また、福祉避難所開設に向け、簡易ベッドやトイレ、食料や水などの必要物資を岐阜市に求めているが、予算の関係で対応していない。今後も有事に備え、一刻も早く具体的な取組や連携強化を続けたい。

意見 7 : 最近放課後等デイサービスの利用が増えているようだが、スクールバスの利用状況はどうか。また、看護師は乗車しているか。

⇒長良特別支援学校との共同で、2台のバスを運行している。登校時は各バスとも3～4名の利用、下校時は2名程ずつ利用している。利用希望については保護者アンケートで集約している。車いす席や乗車時間に制限があるため、利用希望者の全てのニーズに応えるのは困難な状況である。都度、運行路線やバス停を見直し調整を図っていく。また、校外学習等においては岐阜盲学校も含めた3校で活用している。登下校便には看護師は乗車していないため、医療的ケアがある児童生徒の利用には制限を設けている。一般の福祉事業所では、看護師が付き添う登校支援サービスが少しずつ始まっている。

意見 8 : 分掌会等で教職員間の細かい役割分担が整理され、機能していることがよい。

P T A活動「キキボウ体験・交流会」では、福祉関連機関や事業所が36団体参加し、

大変な賑わいを見せた。一方で、交流会の計画や運営に際しては教職員の協力が欠か
せなかった。窓口となる担当教職員と保護者との連携や協力体制のもと、更によりよ
いものになるよう実施方法等を工夫し、次年度に引き継ぎたい。

意見 9 : 「キキボウ体験・交流会」など、児童生徒の将来を見通した各校の取組や働き掛けの
成果が全県下で広く共有されるとよい。積極的に情報発信をしてほしい。

意見 10 : 福祉友愛アリーナ利用者から、学校のグラウンドの利用状況について尋ねられるこ
とがある。先日、グラウンドで児童生徒がモルックをしている姿を目にしたが、今後
もそのようにグラウンドが積極的に活用されるとよい。

6 会議のまとめ

- ・ 児童生徒の転出入、スクールバス利用、修学旅行やその他の活動や行事など、学校の取組に
対する家庭や地域のニーズがある。様々な状況や思いを的確に捉え、相談や調整を重ねなが
ら方向性を定めていく柔軟な姿勢と迅速な対応が求められている。
- ・ 防災や防犯、また、日々の教育活動におけるリスクマネジメントへの意識を常に高くもち、
重大なアクシデント防止と有事への備えの強化が必要である。